

令和4年3月15日

令和3年度

「専修学校遠隔教育導入モデル構築プロジェクト」

調理製菓分野における、遠隔及びeラーニング教育

実践モデル開発事業

遠隔教育導入二一ズ調査結果報告書

学校法人 穴吹学園

本報告書は、文部科学省の教育推進事業委託費による委託事業として、学校法人穴吹学園が実施した令和3年度「専修学校における先端技術利活用実証研究」の成果をとりまとめたものです。

目 次

1. 目的と概要	
1.1 目的	1
1.2 検討体制	1
2. 分析枠組み	
2.1 分析枠組み	2
2.2 分析項目	3
3. 遠隔教育導入ニーズ等調査	
3.1 目的	4
3.2 調査概要	4
3.2.1 調査方法	4
3.2.2 調査実施期間	4
3.2.3 アンケート調査回収率	5
3.2.4 信頼水準の検証	5
3.2.5 調査結果に対する留意点	5
3.3 調査結果	
3.3.2 教員調査	
3.3.2.1 基本事項	6
3.3.2.2 遠隔授業実施状況	8
3.3.2.3 遠隔授業のメリット	9
3.3.2.4 遠隔授業のデメリット	11
3.3.2.5 「実習」を遠隔授業で行うメリットや可能性	13
3.3.2.6 「実習」を遠隔授業で行うデメリットや限界	14
3.3.2.7 アフターコロナ時の望む授業形態	16
3.3.2.8 リアルタイム型遠隔授業で 生かせる「実習内容」	16
3.3.2.9 オンデマンド型遠隔授業で 生かせる「実習内容」	17
3.3.2.10 遠隔授業で利用したツール （通信会議ソフトなど）	18

3.3.3	学生調査	
3.3.3.1	基本事項	19
3.3.3.2	遠隔授業実施状況	20
3.3.3.3	遠隔授業のメリット	21
3.3.3.4	遠隔授業のデメリット	23
3.3.3.5	「実習」を遠隔授業で行うメリットや可能性	26
3.3.3.6	「実習」を遠隔授業で行うデメリットや限界	28
3.3.3.7	アフターコロナ時の望む授業形態	30
3.3.3.8	遠隔授業で利用したデバイス	31
3.3.3.9	学習時間の変化	31
3.3.3.10	遠隔授業について感想	32

目 次

図 3-1	回答専門学校学生規模	6
図 3-2	回答専門学校 学科別学生数	7
図 3-3	回答専門学校 学科学年別学生数	7
図 3-4	「講義」の遠隔授業実施状況（複数回答可）	8
図 3-5	「実習」の遠隔授業実施状況（複数回答可）	8
図 3-6	遠隔授業のメリット（複数回答可）	9
図 3-7	遠隔授業のデメリット（複数回答可）	11
図 3-8	アフターコロナの授業希望	16
図 3-9	遠隔授業で利用した通信ツール	18
図 3-10	回答学生 学科別人数	19
図 3-11	回答学生 学科学年別人数	19
図 3-12	「講義」の遠隔授業受講状況（複数回答可）	20
図 3-13	「実習」の遠隔授業受講状況（複数回答可）	20
図 3-14	遠隔授業のメリット（複数回答可）	21
図 3-15	遠隔授業のデメリット（複数回答可）	23
図 3-16	アフターコロナの希望授業形態	30
図 3-17	遠隔授業で利用したデバイス（複数選択可）	31
図 3-18	学習時間の変化	31

表 目 次

表 1-1	検討委員会委員	1
表 2-1	アンケート調査項目	3
表 3-1	アンケート・ヒアリング・視察調査方法・対象等	4
表 3-2	アンケート・ヒアリング・視察調査期間	4
表 3-3	アンケート調査回収率	5

資 料

アンケート用紙（教員用）	38
アンケート用紙（学生用）	41

1. 目的と概要

1.1 目的

全国の調理製菓専門学校で求められる遠隔教育導入モデルの必要度や遠隔教育で養成すべき調理実技能力を特定し、プログラムの開発根拠とする。

1.2 検討体制

調理製菓系専門学校の遠隔教育導入の実態を調査し導入効果・ニーズを明確化、導入モデル開発の利用可能性の有無、非導入の場合はその理由、将来導入の方向性及び課題を取りまとめるため検討委員会を開催して検討を行う。

(順不同、敬称略)

氏名	所属・職名	都道府県
伊藤 慎二郎	学校法人穴吹学園 高松校 統括副校長	香川県
北原聡	学校法人麻生塾 麻生情報ビジネス専門学校 校長代行	福岡県
鈴木 康之	学校法人鈴木学園 中央調理製菓専門学校静岡校 校長	静岡県
関山 修平	学校法人みえ大橋学園 ユマニテク調理製菓専門学校 学務部 事務長	三重県
小笠原清人	アドバンスシステム株式会社 取締役 事業部長	広島県
村上 勝彦	一般社団法人広島県洋菓子協会 副会長	広島県
東根 克也	福山ニューキャッスルホテル 料理長	広島県
藤井 慶一郎	ビュージックス コーポレーション 日本における代表者	東京都
富永 雄一郎	福山市経済産業局経済部産業振興課 課長	広島県
前田 靖	広島県商工労働局東部産業支援担当 次長(兼)政策監	広島県
大石 英雄	学校法人穴吹学園 専門学校徳島穴吹カレッジ 教務部教務課	徳島県
高橋 克行	穴吹調理製菓専門学校 教務課課長	広島県

表 1-1 検討委員会委員

2. 分析枠組み

2.1 分析枠組み

- アンケート調査対象は、教員、学生とする。
- 遠隔授業のメリット、遠隔授業のデメリットについて教員、学生調査を同じ項目で行いギャップ分析をする。
- 遠隔授業の可能性と限界について記入式アンケートをとる。
- アフターコロナ（ウィズコロナ）の授業形態について教員、学生調査を同じ項目で行いギャップ分析をする。
- リアルタイム型とオンデマンド型遠隔実習の可能性と内容について記入式アンケートをとる。
- 学校側の遠隔授業のツールを調査する。
- 学生の遠隔授業デバイスを調査する。
- 学生の遠隔授業の感想を調査する。

2.2 分析項目

調査対象	調査項目概要
教員調査	1 基本事項 学年別在籍学生数 2 遠隔授業（リアルタイム型・オンデマンド型）実施状況 （1）講義 （2）実習 3 遠隔授業のメリット 4 遠隔授業のデメリット 5 遠隔実習 （1）遠隔実習のメリットと可能性 （2）遠隔実習のデメリットと限界 6 アフターコロナの授業希望 7 製菓・調理実習 （1）リアルタイム型遠隔実習内容案 （2）オンデマンド型遠隔実習内容案 8 遠隔授業ツール
学生調査	1 基本事項 在籍学科と学年 2 遠隔授業（リアルタイム型・オンデマンド型）実施状況 （1）講義 （2）実習 3 遠隔授業のメリット 4 遠隔授業のデメリット 5 遠隔実習 （1）遠隔実習のメリットと可能性 （2）遠隔実習のデメリットと限界 6 アフターコロナの授業希望 7 遠隔授業受講デバイス 8 遠隔授業による学習時間の変化 9 遠隔授業の感想

表 2-1 アンケート調査項目

3. 遠隔教育導入ニーズ等調査

3.1 目的

全国の調理製菓専門学校で求められる遠隔教育導入モデルの必要度や遠隔教育で養成すべき調理実技能力を特定し、プログラムの開発根拠とする。

3.2 調査概要

3.2.1 調査方法

調査方法を以下に示す。

	調査方法	調査対象	調査数	目標回答率
アンケート調査	質問紙法（郵送）	専門学校教員	179校（未着除く）	15%
アンケート調査	質問紙法	専門学校学生	5校程度※1	

※1：愛知・福岡、静岡、広島・徳島県で実施予定

表 3-1 アンケート・ヒアリング・視察調査方法・対象等

3.2.2 調査実施期間

調査実施期間を以下に示す。

	調査期間・調査日
アンケート調査	令和4年1月11日～令和4年1月24日

表 3-2 アンケート・ヒアリング・視察調査期間

3.2.3 アンケート調査回収率

調査種別	配布数	回収数	回収率
教員調査	178	76	42.7%
学生調査	202	202	100.0%

表 3-3 アンケート調査回収率

3.2.4 信頼水準の検証

教員調査)一般的なアンケートの目標回収率は 30%といわれている。本調査回収率 42.7%は国(総務省)の調査と比較しても充分信頼に足りる数値になった。

学生調査)愛知県、福岡県、静岡県、広島県、香川県、徳島県の 6 校について実施したが、調査数も少なく、学校の特徴により回答に偏りがでていいる可能性があるため、回答校学生総数 11,129 人の全体の傾向を反映しているとはいえない。しかし、調査校については全数調査を行っているため信頼性は高い。

3.2.5 調査結果に対する留意点

①回答専門学校 of 学生数規模は最小 6 名、最大 1054 名である。規模により回答の重みを考慮していないため、小規模校が過大評価、大規模校が過小評価されている。

②回答専門学校 73 校のうち 41 校が製菓学科、53 校が調理学科を設置している。アンケート結果は調理学科に偏りがみられる結果になっている。

③学生調査は、調理が 30 名、製菓が 172 名だった。そのため製菓の学科に偏りが生じている。

3.3 調査結果

3.3.2 教員調査

3.3.2.1 基本事項

(1) 回答専門学校学生規模

- 学生数 49 人以下の学校は 20 校（26%）だった。
- 50 人以上 99 人以下の学校は 15 校（21%）だった。
- 100 人以上 199 人以下の学校は 20 校（26%）だった。
- 200 人以上 299 人以下の学校は 11 校（15%）だった。
- 300 人台の学校は 3 校、400 人台の学校は 3 校だった。
- 600 人台の学校は 1 校、1000 人を超えている学校が 1 校あった。

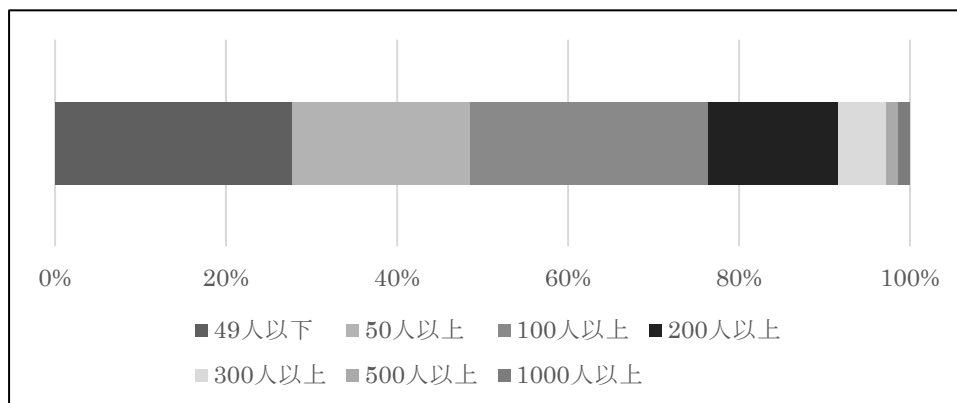


図 3-1 回答専門学校学生規模

(2) 回答専門学校学科と学年学生数

●学生数を学科で見ると、調理が7158名、製菓が3971名だった。

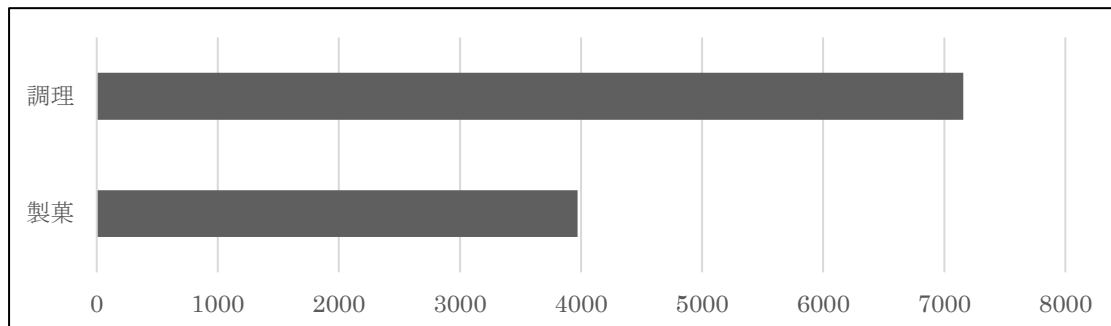


図 3-2 回答専門学校 学科別学生数

●学年別学生数を見ると、1年が6109名、2年が4624名だった。3年が216名だった。

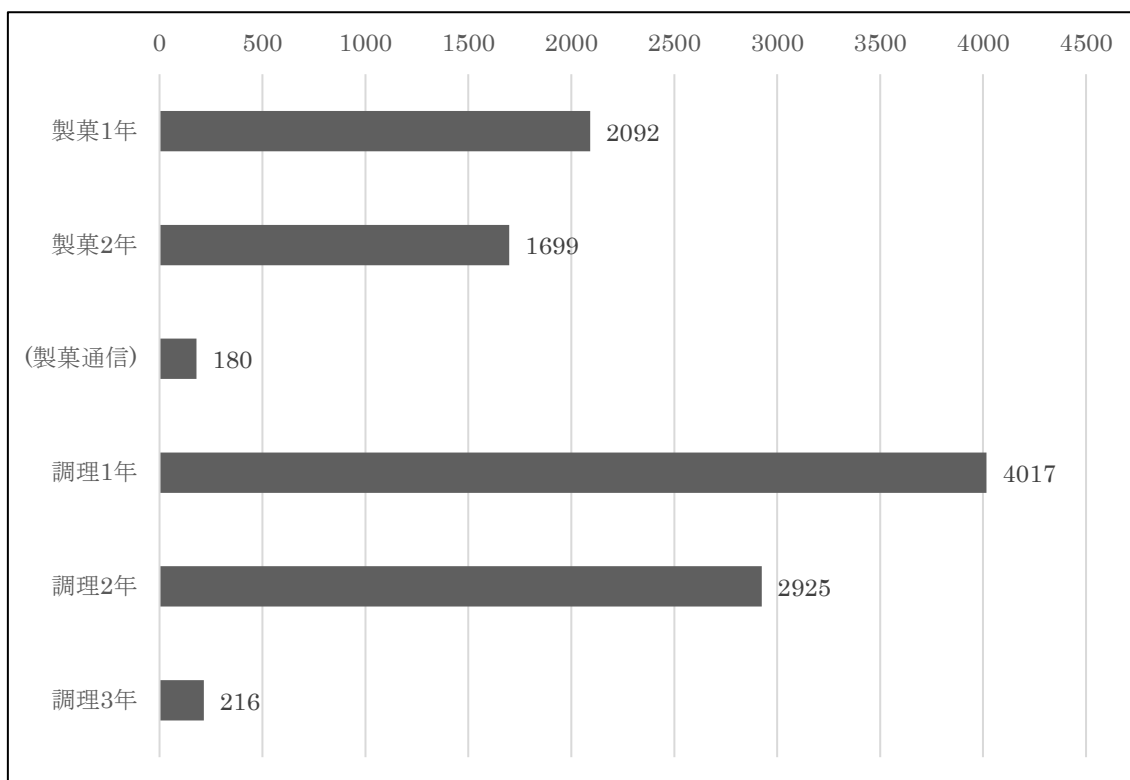


図 3-3 回答専門学校 学科学年別学生数

3.3.2.2 遠隔授業実施状況

(1)「講義」の遠隔授業実施状況

- 未実施が33校（45%）だった。
- ビデオ会議システム等を使い、リアルタイムで双方向の講義を実施した学校は36校（49%）だった。
- 講義の様子を配信するオンデマンド型講義を実施した学校は20校（27%）だった。

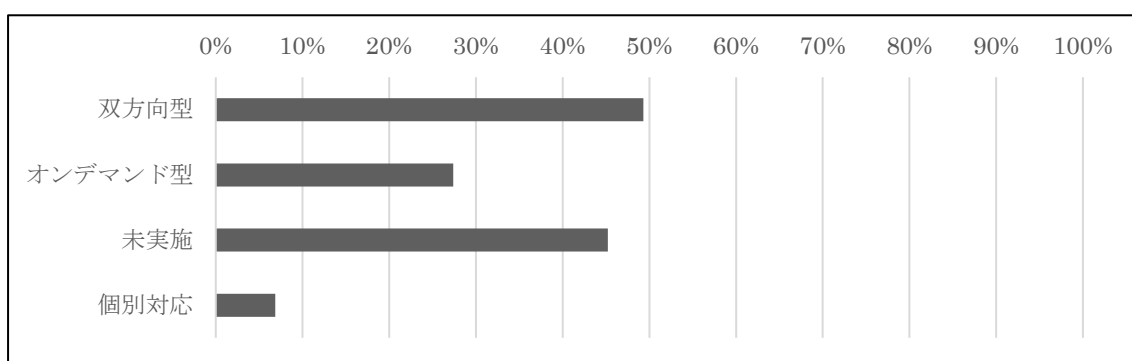


図 3-4 「講義」の遠隔授業実施状況（複数回答可）

(2)「実習」の遠隔授業実施状況

- 未実施が57校（78%）だった。
- ビデオ会議システム等を使い、リアルタイムで双方向の実習を実施した学校は15校（21%）だった。
- 実習の様子を配信するオンデマンド型講義を実施した学校は10校（14%）だった。

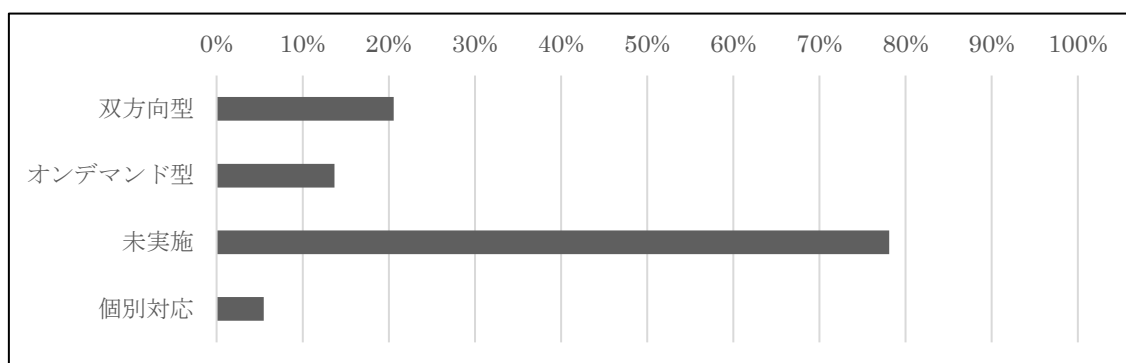


図 3-5 「実習」の遠隔授業実施状況（複数回答可）

3.3.2.3 遠隔授業のメリット

- メリットをチェックした総数は 183 で、1 校平均 2.4 項目をメリットとして挙げた。
- 59%が、移動時間がかからないことを挙げた。
- 45%が、いつでもどこでも受講できることを挙げた。
- 45%が、いつでもどこでも受講できることを挙げた。
- 38%が、グループ学習が苦手な学生は受講しやすいを挙げた。
- 36%が、自分のペースで繰り返し学習できることを挙げた。
- 30%が、授業の記録を残すことができるを挙げた。

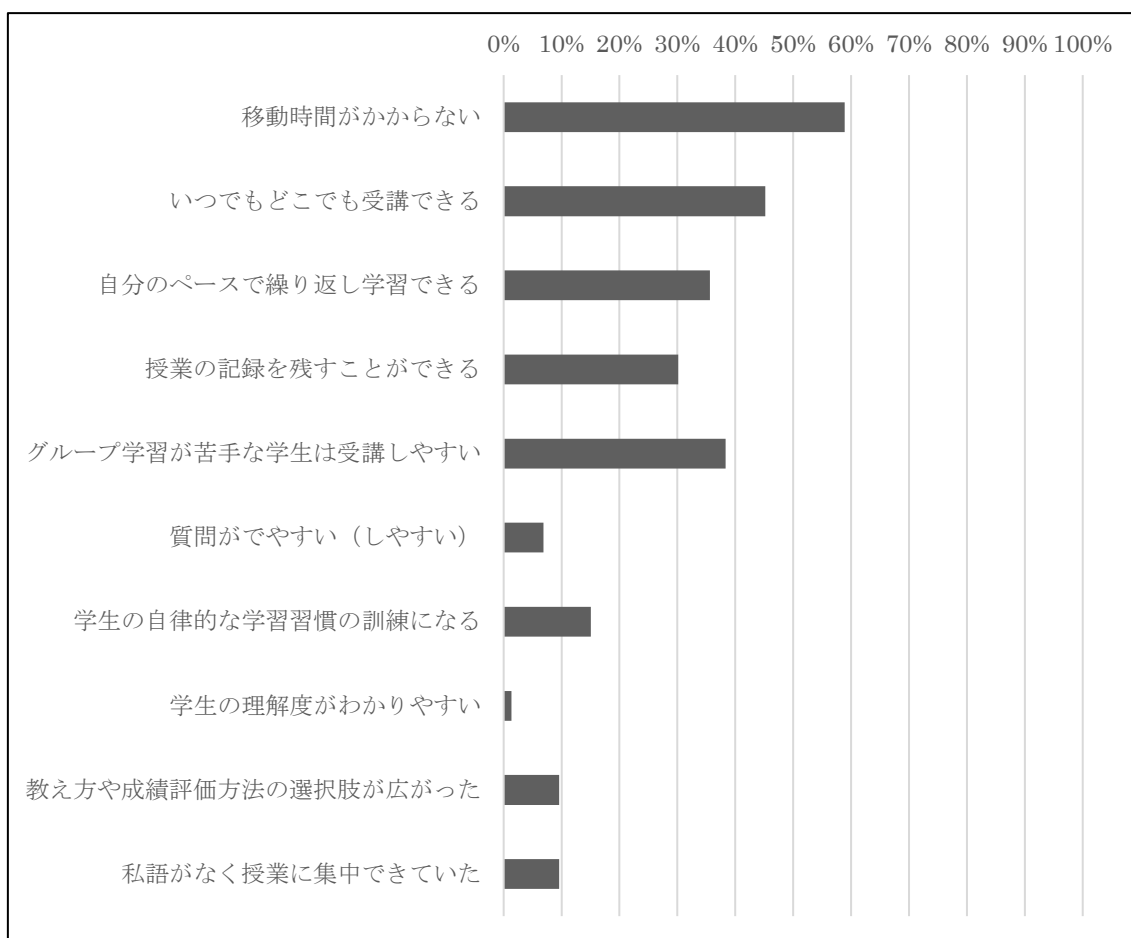


図 3-6 遠隔授業のメリット (複数回答可)

選択肢以外のメリット（記述・原文ママ）

- 板書などは受講生のタイミングに合わせる事ができる
- 授業のカリキュラムが組み替えやすい
- 実技試験の課題を学生対象に配信することで自宅での学習の支援になった
- 教員の時間的拘束減少
- 新型コロナ対策上は必要な方法と考えます
- 教職員、学生の遠隔授業のスキルアップ
- 授業時数の確保に寄与することの意義は大きいと思います。

3.3.2.4 遠隔授業のデメリット

- デメリットをチェックした総数は333で、1校平均4.4項目をデメリットとして挙げた。
- 84%が、実習での利用が難しいを挙げた。
- 78%が、通信環境に左右されるを挙げた。
- 70%が、学生の反応や理解度がわからないを挙げた。
- 56%が、学生に対してサポートやメンタルケアができないを挙げた。
- 47%が、コミュニケーションや振り返りが難しいを挙げた。
- 34%が課題作成やチェックの負担が増えたを挙げた。

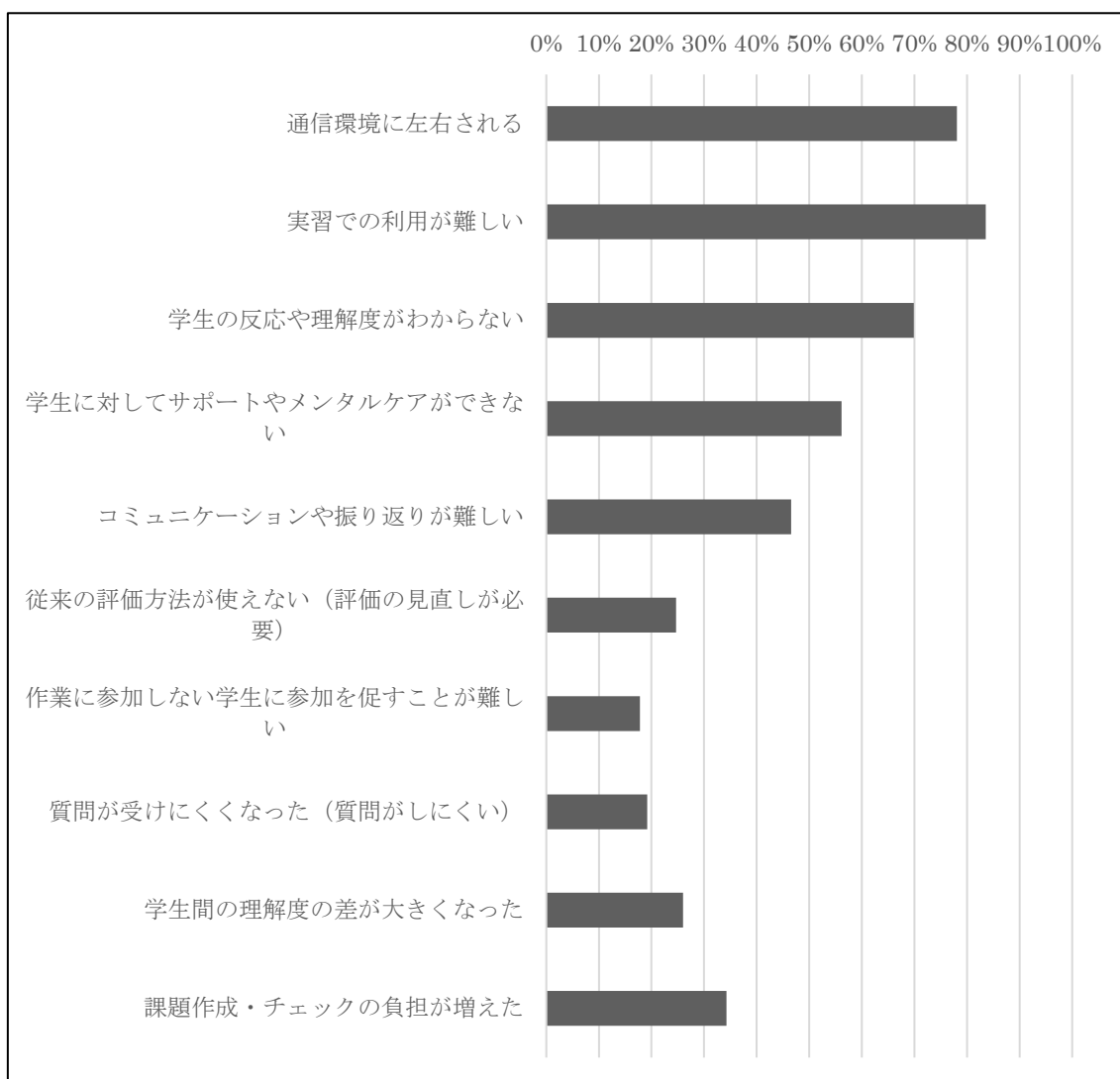


図 3-7 遠隔授業のデメリット（複数回答可）

選択肢以外のデメリット（記述・原文ママ）

- 授業への取り組み方が学生のやる気にゆだねられる。（本人のやる気がなければ授業に参加しているだけで終了する）
- パケット代の負担増（生徒）。使用器材（調理器材）が各家庭で異なるため質の高い実習は不可能
- 実技の評価は課題科目を定め試験で見えていくが、遠隔授業では学生毎の習得度を判断しにくかったり細かな指導をしにくいと感じる
- 技術指導が難しい
- 通信課程のスクーリング単位の授業については一部オンラインを実施しました。遠方からの参加者は移動がなくなりメリットもあったと思いますが、教員側の負担が大きく、通信環境等色々と課題ありでした。
- 授業内容の見直しが必要になった。（試食など）・学生、教員の操作スキルによる差が出てしまう。
- 生徒の様子が伺えない（特にオンデマンド方式において）
- 動画作成の時間が取られてしまう

3.3.2.5 「実習」を遠隔授業で行うメリットや可能性

- 感染等の心配が軽減されたこと以外は対面の授業の方が成果が上がると思いました
- オンラインのシステムを使うことによって動画の活用がしやすくなる
- 細工授業の場合は手元を大きく映し出すことで作業が理解しやすくまた繰り返し練習を行うときにも録画を繰り返し再生することで理解しやすい
- 同じ作業、学習内容の繰り返しができる
- デモが対面時より近い視点で全員確認できる。
- 繰り返し学習が可能。補習に対応
- 講師の手元が見やすい点はメリットとして挙げられる
- 動画配信により繰り返し学習が可能になった。
- 授業内容の見直しと教授法のブラッシュアップ
- 新しい授業方法の可能性を探るきっかけとなった
- 緊急事態宣言中に希望者のみオンライン授業を行いました。繰り返し視聴できるという流れにしなかった為、それを行えば学生にとってはメリットだったかなと感じています
- 本校ではリアルタイム型でしたので行ってはいないが、オンデマンド型の場合だと重要なポイントなど繰り返し見ることができ、学生の理解が深まるのではないかと思います。
- 講師目線でありかつ手元の細かい作業が明確に伝わりやすい
- 実習に関してはあまりメリットを感じられない。
- コロナ禍の中でも授業を進行することができる。
- 授業参加方法としては有効だと考えます。例) コロナ感染拡大時、大雪等での公共交通機関停止の際の学校運営の継続性。
- 自宅でも練習できる内容、指導が増えると考える。
- 教員の手元が全員平等に見れる。
- 録画しておけば、繰り返し確認ができる。
- 遠方の有名店のシェフ等からのライブ配信をすれば授業が可能になる可能性がある。
- 講師のデモンストレーションを繰り返してまた、細かい箇所まで確認することができる
- 環境を整えば自宅等でも実習ができるため人数に関わらず同時に実習できる。
- オンデマンド型の場合一度撮影したメニューは何度も使えるため次回に生かせる。広報活動にも活用しやすい。

3.3.2.6 「実習」を遠隔授業で行うデメリットや限界

- タイムラグや調理作業のチェックができないことが難しさを感じました。
- 味が伝えられない
- 学生が実習中の指導が非常にやりにくい
- 道具、機材など学生の統一が出来ないことや材料がそろわない等の問題があり、また、出来上がりのチェックも見た目だけになってしまうことで「味」が指導しにくい
- 家庭に実習道具（オープン）がない学生がほとんどであったため深い内容が出来なかった
- 映像などを準備するのに時間がかかる
- デバイスや機器に左右される（ちらつき、環境、機器音など）。
- 学生の技術習得は見込めない。
- 学生の受講受講状況をチェックできない。
- 学生個人の習得度、習熟度の判断ができない。
- 食材調達が困難な場合がある。
- 間違っただとしても教えてもらえない。
- 間違いに気づけない。
- 味付けの評価ができない。
- チームワークが培われづらい。
- 教育効果があるとは思わない
- 学生の集中力の限界
- 学生の理解度の格差も然ることながら教員間のスキル（資料作成やツールを使っでの遠隔指導）にも差が出てそれぞれに課題がある。
- 当校は外部講師授業が多いため技術系の授業をオンラインで行うなんてとおっしゃる方が多いです。
- コミュニケーションが取れない、反応がわからないので、一方通行の授業になってしまう
- 実習は手取り足取りができない。
- においが伝わらない、味見ができない、等対面には変えられるものがないと感じる
- 個別対応（理解度が劣る学生）のフォローが困難である
- 設備内環境の格差、材料の配布や準備など器材が特殊であり、生ものが多い分野において実習が難しいと感じたため、テスト的に行った1~2回の実施にとどまっている。
- 学生の理解度や完成度の把握が難しい。
- 学校の設備と家庭での設備に差があるので難度の高い実習やスーパー等で購入が難しい食材等を使った実習は限界を感じる。
- 個別の指導が難しい。
- 色と臭いが伝わりづらい。
- 技術指導が難しい。

- 互いにコミュニケーションがとれない。→チームワークが身に付かない。コミュニケーション能力が不足している。
- 声を出す習慣がなくなる。
- 理解度に差異がある。
- 学生の制作物について視覚以外で確認することが難しい
- 技術面の向上、習得には個人差もあり、対面と比べると実践的なレベルまで引き上げるには限界がある。
- 学生が自宅では実習できる環境下である者は少ないので示範を遠隔で見せる説明することしかできないが、数多く見せても学校に来て実習するときには忘れていく。

3.3.2.7 アフターコロナ時の望む授業形態

- 85%が「100%対面」を望んだ。
- 14%が「75%対面 25%遠隔」を望んだ。
- 1%が「50%対面 50%遠隔」を望んだ。

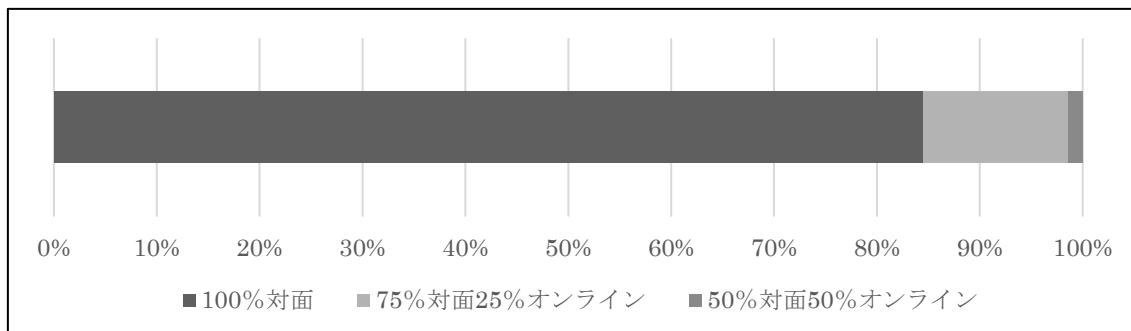


図 3-8 アフターコロナの授業希望

3.3.2.8 リアルタイム型遠隔授業で生かせる「実習内容」

- 調理のデモンストレーション
- 実習授業のオンラインで教育効果を上げる方法が全くわかりません
- 基礎的内容で家庭に道具がなくても出来るもの
- パイピング（チョコペンメッセージ）
- 大人数での対面にくらべて師範の手元や作業のポイントなど画面で確認でき、理解度が上がると思います
- 魚のおろし方
- 技術の細部伝達
- 事前学習(予習):実際に学生が実習をする前に一連の作業を理解した上で実習を進められる。実習の時間短縮を図れ、他のことを教えることができる。

3.3.2.9 オンデマンド型遠隔授業で生かせる「実習内容」

- 調理実習においては理科出来ない部分をリピートして見ることができるので良い
- デモンストレーションは録画して繰り返し見られるように準備・整理しておくとういと思いました
- 細工物の授業「マジパン」「シュガークラフト」等
- 卵料理等（だし巻き、オムレツ、薄焼き卵）
- デモンストレーションを繰り返し見られるのはいいと思いますが、その後の実習を一人でやるデメリットの方が大きすぎると思います。
- パイピング（チョコペンメッセージ）
- 基礎的な内容で繰り返し事務的に作業できる内容
- 基本的技術の習得。初歩的な作業や名称を覚えるなどは反復学習が可能な為教育効果が高まると期待できます。
- 包丁の使い方、器具の基本的な扱い方など繰り返し自分のペースで視聴できるのは良いと思う
- 実習試験のデモンストレーションなど繰り返し見て理解させない内容は効果があるのではないかと思う
- 遠隔授業に踏み出せないまま過ぎております。実際、実習部分は今後も難しいと感じています。
- 実技試験の作業内容を繰り返し視聴する事ができれば理解度が上がると思います
- 実技試験の課題の自宅練習では各自のペースで繰り返し学習出来て有効だと感じている
- デモの動画配信
- 包丁とぎ、道具取り扱い
- 飾り切りや点心の包み方など手元のアップを繰り返し見ることができるなら効果は高いと思います
- 繰り返し視聴が可能なので基礎の実習（包丁とぎ、野菜の切り方、桂剥きなど）何度も確認できる
- 繰り返し視聴ができるので実技試験課題の反復学習ができる
- 手先の技術が重要なもの。ラテアート・細工菓子
- 切り物練習など基本的な内容。
- 基礎、反復につながる内容
- 繰り返し学習
- 再現性があり、繰り返し確認が出来ること。
- デモンストレーションのみなら効果もあるかもしれない。

3.3.2.10 遠隔授業で利用したツール（通信会議ソフトなど）

- ZOOMが35校（50%）だった。
- Google Meetが14校（20%）だった。
- Microsoft Teamsが12校（17%）だった。
- LINEが4校だった。
- Cisco Webexが2校だった。
- 学校独自のツールが3校だった。

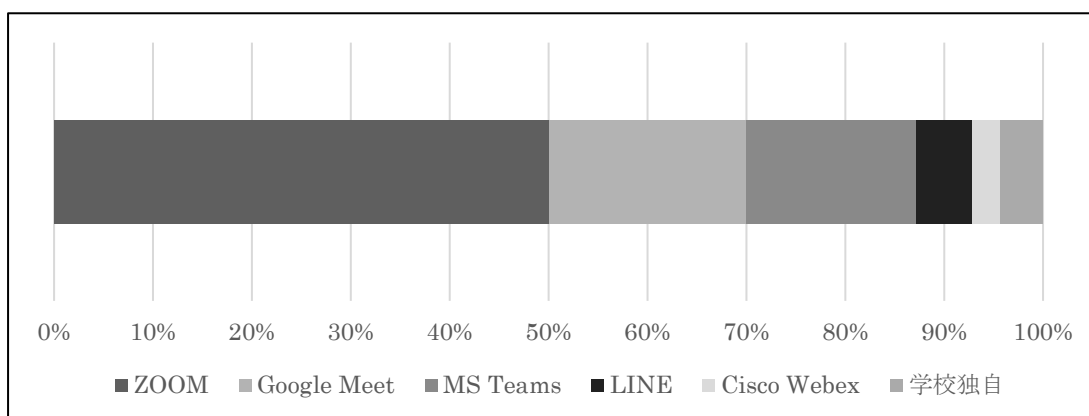


図 3-9 遠隔授業で利用した通信ツール

3.3.3 学生調査

3.3.3.1 基本事項

(1) 回答学生の学科と学年

●学生数を学科で見ると、調理が30名、製菓が172名だった。

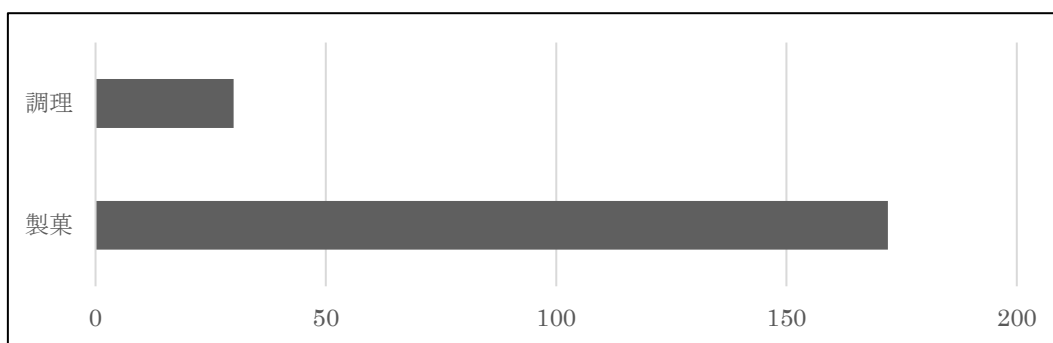


図 3-10 回答学生 学科別人数

●学科学年別学生数を見ると、製菓1年が95名、製菓2年が77名、調理1年が15名、調理2年が15名だった。

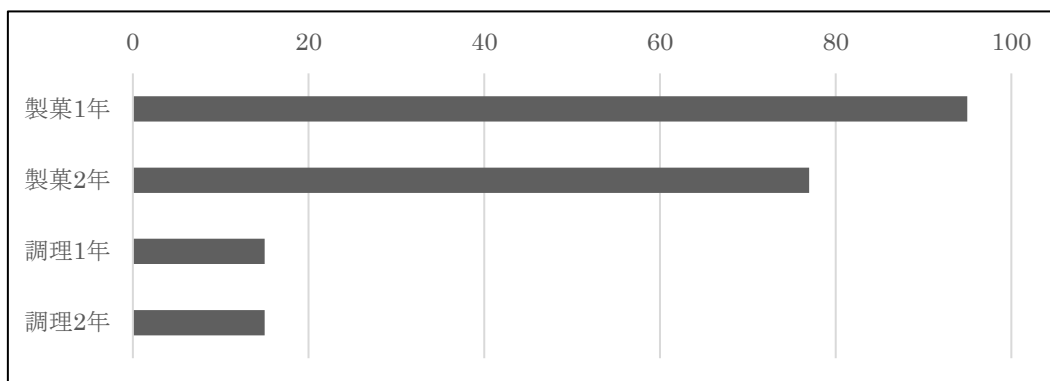


図 3-11 回答学生 学科学年別人数

3.3.3.2 遠隔授業実施状況

(1)「講義」の遠隔授業実施状況

- 未受講が0名で100%遠隔授業を受講した。
- ビデオ会議システム等を使い、リアルタイムで双方向の講義を受講した学生は202名で全員だった。
- 講義の様子を配信するオンデマンド型講義を受講した学生は63名(31%)だった。

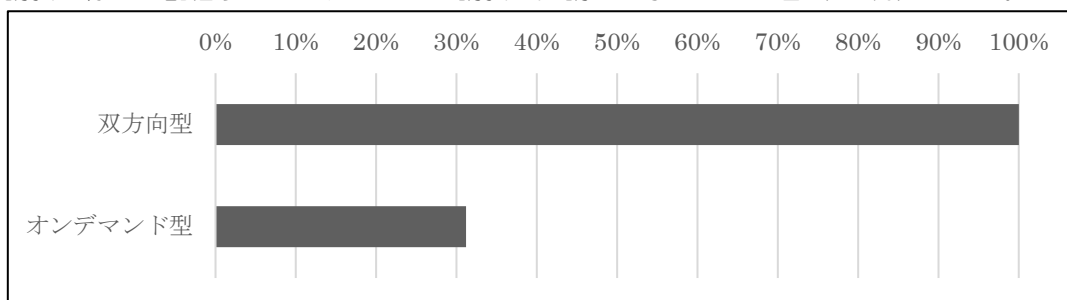


図 3-12 「講義」の遠隔授業受講状況 (複数回答可)

(2)「実習」の遠隔授業実施状況

- 実習の遠隔授業未受講が127名(63%)だった。
- ビデオ会議システム等を使い、リアルタイムで双方向の実習を受講した学生は75名(37%)だった。
- 実習の様子を配信するオンデマンド型実習を受講した学生は14名(7%)だった。

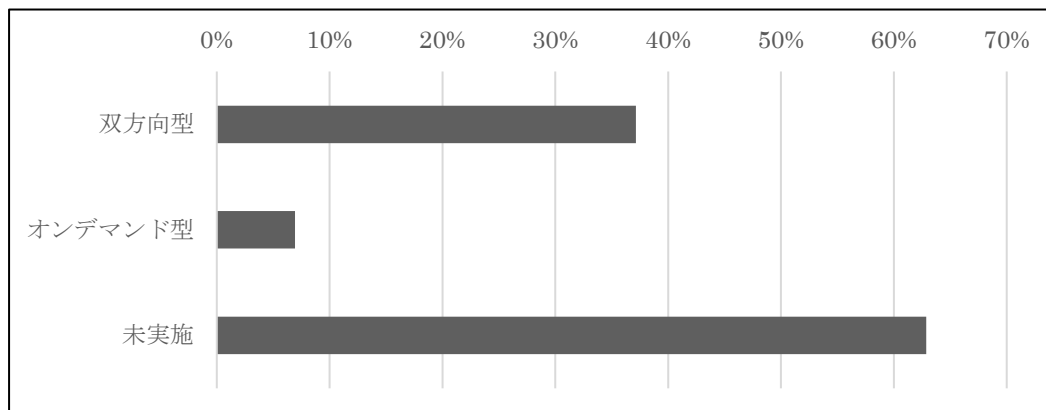


図 3-13 「実習」の遠隔授業受講状況 (複数回答可)

3.3.3.3 遠隔授業のメリット

- メリットをチェックした総数は 434 で、1 人平均 2.2 項目をメリットとして挙げた。
- 89%が、移動時間がかからないことを挙げた。
- 37%が、いつでもどこでも受講できることを挙げた。
- 32%が、私語がなく授業に集中できたを挙げた。

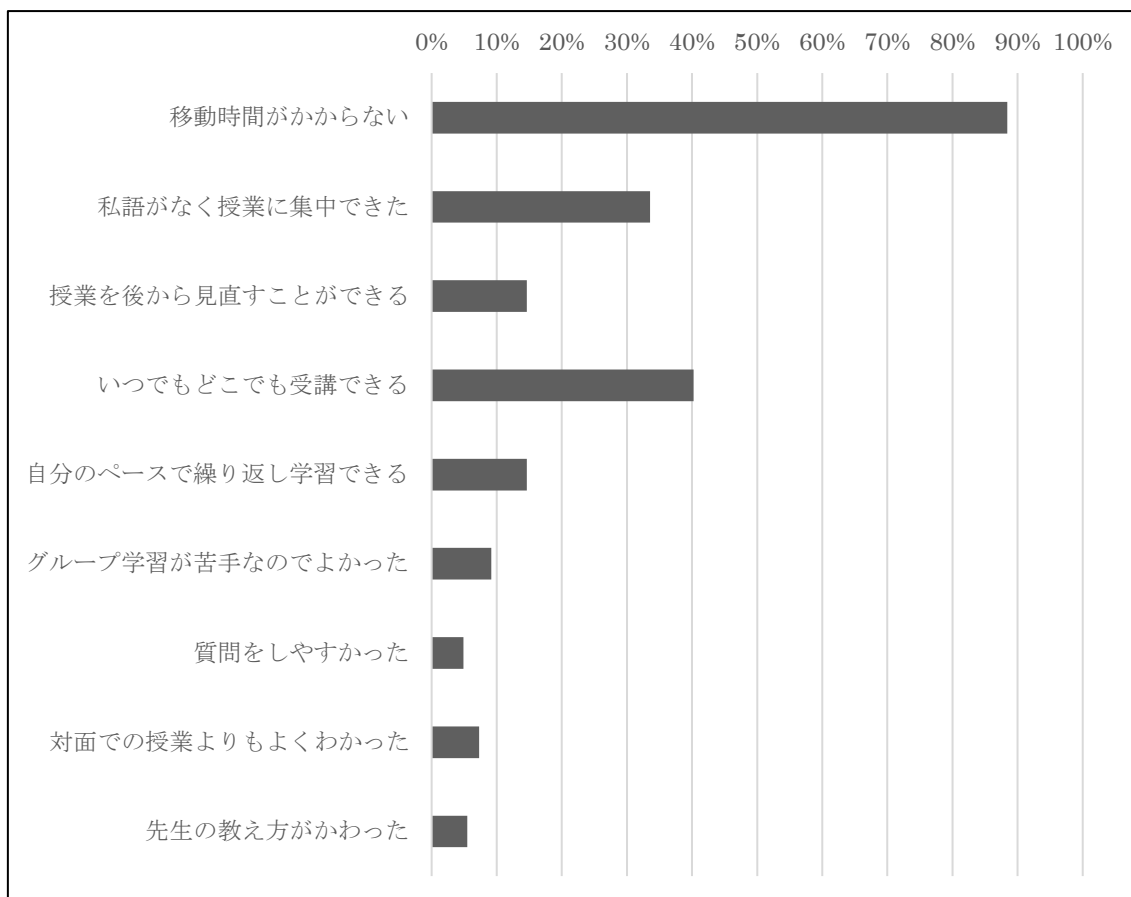


図 3-14 遠隔授業のメリット（複数回答可）

選択肢以外のメリット（記述・原文ママ）

- 集中できる
- ねむくならない
- リラックスして受講できた
- 写真や図などを使っておりわかりやすかった
- 事前にプリント内容が配布された授業を受け、先生から配信された画面も見やすく、普通の授業よりも理解が深まったのがよかった
- 家ででの学習なので学校にいる時よりもリラックスして授業を受けられた
- 自分のスペースを確保して授業を受けることができた
- 密を避けた。
- 学校にいかなくてよかったので自宅で落ち着いた環境で受講できました
- スライドで画像も一緒だったので内容を表や写真を見ながら受けて分かりやすかった
- スクリーンショットができてよかった
- 移動時間がないのでよかった
- ギリギリまでねれる
- 自分にあっている。楽しい
- 家で授業をうけるのでリラックスしてのぞめる
- 落ち着いて授業を受けることができた。
- 手元が見やすい
- 朝の支度などもゆっくりできるのでよい。
- パソコンを使っただけの説明だったので分かりやすかった。

3.3.3.4 遠隔授業のデメリット

●デメリットのチェック総数は 387 で、1 人平均 1.9 項目をデメリットとして挙げた。

※メリットのチェック総数は 434、1 人平均 2.2 項目。

- 56%が、通信環境に左右されるを挙げた。
- 35%が、実習をするのは難しいを挙げた。
- 30%が、質問がしにくかったを挙げた。

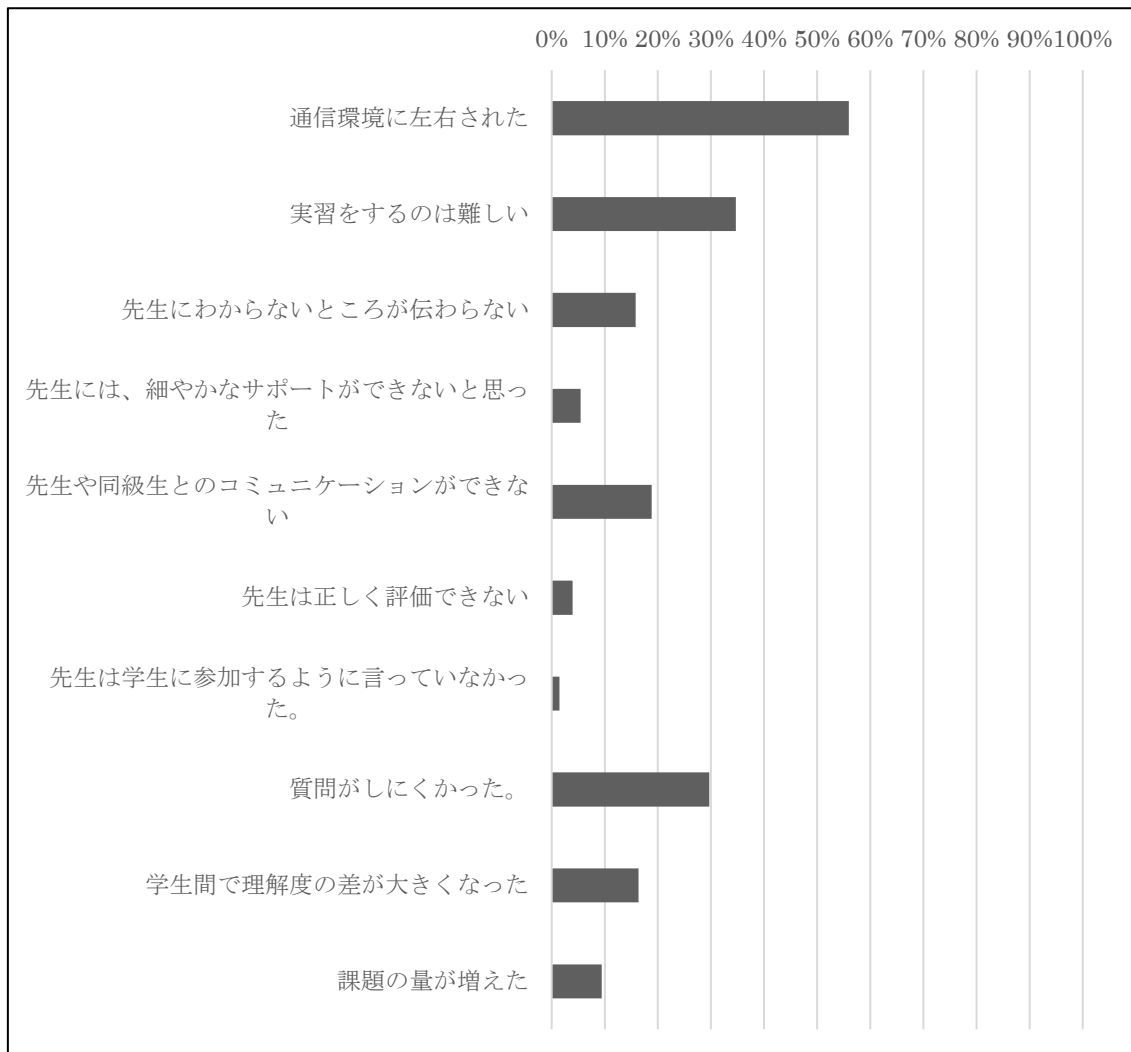


図 3-15 遠隔授業のデメリット（複数回答可）

選択肢以外のデメリット（記述・原文ママ）

- 声たまに途切れたりもして聞きにくいです
- 対面授業のように自分のペースで授業を受けられないこと
- ノートに書く量が増えた
- ノートの量とペースが速くてついていけなかった
- 先生の手元が見えにくい
- 目が悪くなるかもと感じた
- 先生に見られない部分も多くあるので授業に対してのやる気が起きにくかった
- プリントの配布（配信）がないのにある体であったり、後で各自で記入するようにメモをとって受けたりした授業があり、ほとんど内容の理解が難しく感じたこと。対面に戻った時も授業についていけない場面があった。
- 白板の字が見えづらい時があった
- 実習は実際やってみないと状態がわからないので、遠隔授業は難しいと思った。先生方はできる限りのサポートをしてくれた。
- スマホで受講したが画面が小さく見にくい。充電がすぐになくなるうえに、スマホがすぐに熱くなる。音声か乱れて聞こえないことが多々あった。
- 通信料がかかる。タイムラグが起きる
- 自宅の環境や騒音があり学校よりも環境面で学びの質が低かった
- 音が聞き取りづらい時があった
- 実習ではリアルで見るより状態がわかりにくかったです。
- 板書が見えないことが多く、板書を消すのが速い先生もいたので板書がとれない時もあった
- ノートを書くのに切り替え（画面）がはやくて、ノートがとれないところがあった。
- 分からない所を聞くことができない。声・映像が止まったりして内容がよく理解できない
- 画面が小さかった。先生でホワイトボードが見れない時があった
- スライドが固まった時に気づかず、進んでしまっていた。
- 白板が見にくかった
- パワーポイントが映っていない時がある。入室できない時がある。
- 画面の切り替えが早い
- 授業ペースがはやい
- 生徒がノートを書き終わっていないけど先生はそれがリモートにより分かりにくかったみたいで、授業が進むのがはやかったです
- 板書が見えづらかった。音質が悪い
- 授業を受けるに当たっての緊張感が対面と比べて欠ける印象があった
- 集中できなかった
- 音が途切れたりしたこと

- 学生間の関わりが少ない
- 質問や不具合などを送っても先生が気づきにくく対応が遅れてしまった
- 目が疲れる。声がききにくいときがあった
- 目が疲れて大変だった
- 白板が見えにくいことがあった。スマホの受電がすぐなくなった。わからない事をすぐに解決できなかった。
- 長時間していると目が疲れる。
- 家のインターホンがなった時、家に自分しかいない時に対応しなきゃいけないので、授業が少し聞けないことがまれにある。
- 文字がみづらい。
- 対面とはちがって、細かい所が分かりにくい。
- 画面が見にくい。

3.3.3.5 「実習」を遠隔授業で行うメリットや可能性

- 後から映像等を見て振り返ることが出来る。文字として補足がみられるのでメモしやすい。
- 集中できる
- より丁寧な説明を聞くことができてよかった。
- 先生が家でも作りやすいお菓子をとり上げてしてくれたこと
- みやすかったです
- 大切なことをスライドなどで文字化して話してもらえるためイメージがしやすかった
- 静かな環境で集中して授業を受けることが出来た
- 座って受けれるので足が疲れず集中できた
- 見返せるところがよかった。ゆっくり落ち着いてレポートが書けた。
- 調べた内容を先生が共有できる
- 集中して話を聞くことができた
- 人の作品がとても見やすかった
- パワーポイントが分かりやすくて良かったです。
- 自分のペースでもくもくとできる
- 家にいても実習の雰囲気少し感じることができたのがよかった
- リアルタイムで実習を見ることができ授業についていきやすかったこと
- 時間に余裕ができた
- 説明が聞き取りやすかった
- 動画を残しておけるのでいつでも見直せてよかったです
- デモが同時に進んでしまうと、両方の情報を受け取れず不便だった。別の班の動きがわかって、勉強になった（段取り等）
- 自宅にいながら実習の様子がわかるのがよかった。
- 感染リスクを限りなく減らすことができるという点でよかったと思った。」
- 休んでいるときに後れを取らず実習を見ることができてよかった。いろいろな先生のデモを見たい。
- メモがとりやすかった
- 学校に行けなくてもスマホで自宅から実習の様子を見れるのはよかった
- ひとりですっきり見ることができる（落ち着いて）。一回で分からなかった所をもう一度見ることができるからよい。
- 自宅で実習を確認できる。何度も確認し直せる。
- 学校に行く支度をしなくて済んだ
- ぎりぎりまで寝れる
- 学校まで行かなくていいから楽だった。リラックスして授業がうけられた。
- 分かりやすい点もあった。

- 手元がみやすかった。
- いつもは見えない手元の映像が見れて良かった。
- 先生のしはんを近くで見れる。
- 手元がよくみえた。
- 手元がよく見れた。
- 家で受けれる事がよかった。
- 分かりやすい。
- 先生の手元がよく見ることができて、とてもわかりやすかった。
- 手元が見やすかった。

3.3.3.6 「実習」を遠隔授業で行うデメリットや限界

- Wifi の状況によって左右される。声や動きが確認しづらい
- たまに声やカメラオンがおかしくなったりもします
- 状態の変化がわかりにくくあまりよくないと思った
- 火加減や状態がわかりにくかった
- 実際に自分で作って見ないと理解できないことがあること
- 電波が悪く状態が見つらなかった
- わかりづらい、見づらい
- 先生の技術を身近で見ること。先生に個々のアドバイスをもらえないこと
- Wi-Fi 環境で受けにくいときがあった
- 見えづらく技術的な面においては伝わりづらく大変だった
- 一人一人を見れないからアドバイスを聞けない
- 画質が悪いと見つらなかった
- みんなで実習がしたいと思った
- 画質があまりよくないので手元が見えにくい。
- 細かいところがわかりにくい。
- 実習を行うのに適しているとはいいいにくいところではなければいけないことがあった
- 実際に家でできることは限られてくるので実習は対面の方が良いです
- 集中力がすぐに切れてしまった
- 正直何をしているのか分かりづらかった
- オンラインだと自分が見たい部分などを重点的に見るができない。
- 実際に実習をしていないのでルセットをまとめにくかった
- 時々どこの部分の説明をしているのか分からなかった
- 説明は聞きやすくてよかったのですが、実習で作ることができないので頭に内容が入ってきにくい
- 画質が悪く、見えづらい時があった
- 実際に実習に参加しないとわからない所がたくさんある。
- 実習時間を見ているだけだと時間を上手に使えていない気がした。
- 細かい状態などがわからないのでそこがよくなかった。（生地とかの）
- 実習はやはりその場の熱量が伝わってこないのでは不向きであると感じた。
- 他の生徒と顔をあわせることができないため、モチベーションを保つことが難しい。
- 自宅から出ないため授業を受けるというスイッチが入れにくい
- 途中途中で思いついた質問ができない。
- 画質が悪い。
- タイムラグがある。

- 実際に目で見てないから状態とかがわかりにくい
- 実習でミキサーを使っていたため話し言葉が聞き取れないことが多かった。
- 遠隔だと全体への指導は受けやすかったが、個人で指導されなかった。
- 状態確認が難しい。家でやるには学校のモノと家のモノでは差が生まれてしまう。
- 携帯の充電が減る
- 質問の意味がわからないところや授業のペースが速かった
- 通信状態が長い間使っていると声かとぎれたり、画面がうつらなくなったりする。1日中画面を見ているとつかれる。
- 食べれなかった。
- 音声がないと何を入れているのか分からないことがある。
- wifiの状態が途切れて分からないことがあった。
- 自分でできないので身につかない。
- 声がききとりにくい。説明が頭に入らない。
- ケータイが重くなって動きが遅くなった。
- パソコンが重くなって見逃してしまうことがあった。
- Wi-Fiが安定するのに時間がかかったり、画質が荒くなったりしたこと。自分たちも実習しながらでないと分からない疑問を聞けないこと。先生のアドバイスを直に聞けないこと。
- 細かい所がわかりにくい。
- 困ったときなどにすぐにきけないところ
- 困ったときに質問しづらい

3.3.3.7 アフターコロナ時の望む授業形態

- 38%が「100%対面」を望んだ。
- 26%が「75%対面 25%遠隔」を望んだ。
- 24%が「50%対面 50%遠隔」を望んだ。
- 4%が「25%対面 75%遠隔」を望んだ。
- 6%が「100%遠隔」を望んだ。

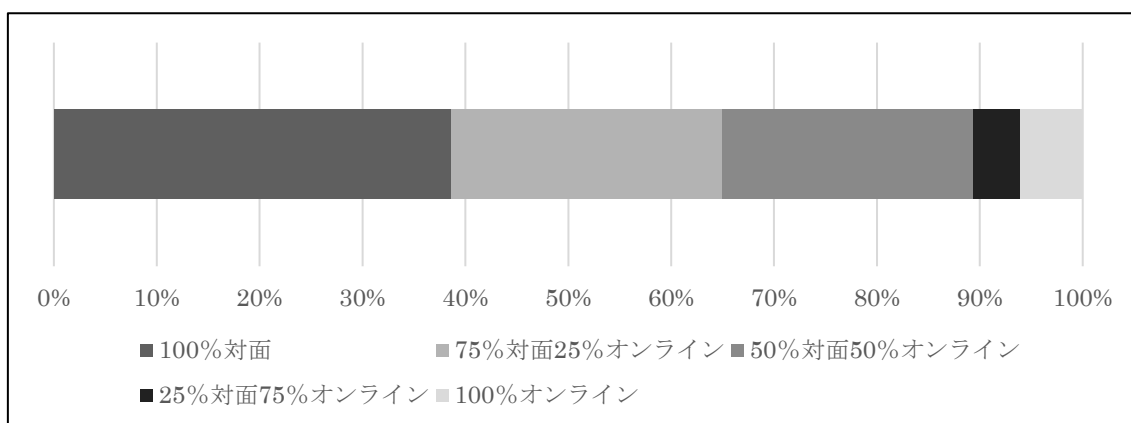


図 3-16 アフターコロナの希望授業形態

3.3.3.8 遠隔授業で利用したデバイス

- 74%がスマートフォンを利用した。
- 16%がノートパソコンを利用した。
- 9%がタブレットを利用した。
- 4%がデスクトップパソコンを利用した。

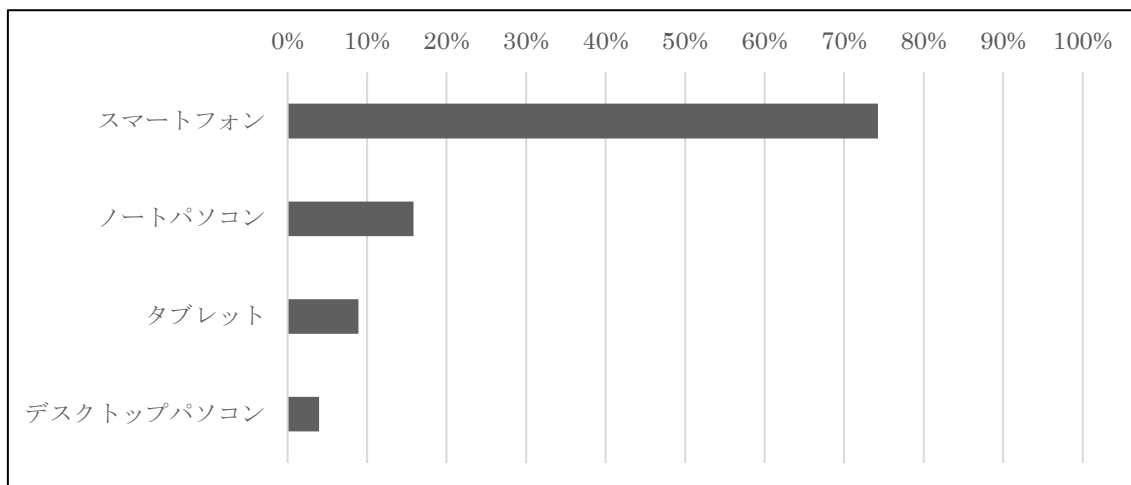


図 3-17 遠隔授業で利用したデバイス（複数選択可）

3.3.3.9 学習時間の変化

- 66%が変わらないと答えた。
- 18%が増えたと答えた。

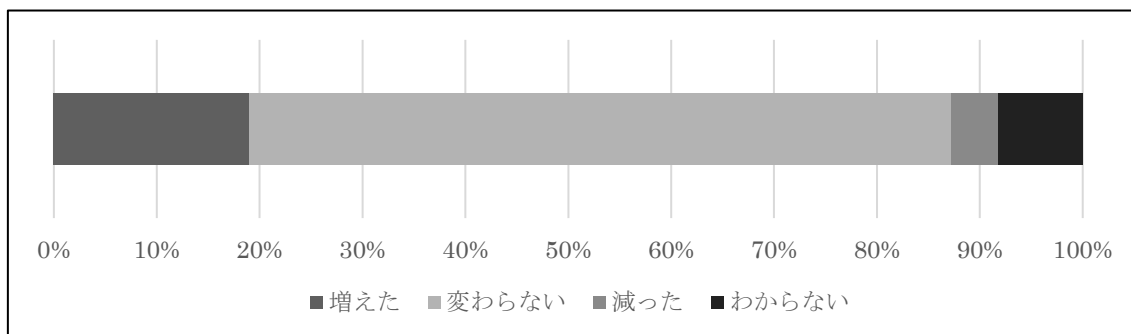


図 3-18 学習時間の変化

3.3.3.10 遠隔授業について感想

- 対面の方が緊張感があり自分には合っていると思った。実習に関しては100%対面でないとやりづらかったように思う
- オンラインより対面の方がいいと感じました
- 授業を見返す事ができるからとても良いと思いました。
- 週に1度なので回数はちょうど良いが集中できなかった
- 遠隔授業は後で何度も見ることが出来るので、いろいろなことに活用できると思ったが、実習は対面でした方が良いと思う
- 1人の空間で授業が受けられるのでしっかりと集中が出来てすごく良いと思う
- 集中しづらく難しかった
- このやり方もいいと思った
- 先生方がマイクオンにするのを忘れて授業がすすみ、またそれに気づいて2度話すことが大変そうだと思いました
- 対面より集中できた
- ノートが落ち着いて欠けた事や移動しなくて良い安心感もあり良かった
- Wi-Fi環境が悪くて落ちたり、音声を通らなかつたりすることがたまにあって、その面に関しては不便だなと思った
- 対面より理解しにくいと思った
- いつでも授業を見返ることができるので助かる。電波が悪いと反応しないので固まる
- 調子が悪いと落ちる
- 改善点はあるが受けやすいのでよかった
- らく
- 家に物が多いので少し集中しにくさを感じる。だけど図などが増えたので授業などがわかりやすかった。
- 対面もオンラインも違う良さがあった
- 静かに集中して受けれたが、友達同士でやっているところの確認ができないので少し不便だった
- オンデマンド型を取り入れて欲しいと感じた。テスト勉強の時にオンデマンド型なら見返せると思う。オンラインだと聞き逃すこともあったので。
- 電波の影響により共用画面やホワイトボードの字が見つらい時が多かった。
- スマホだと先生が提示した資料が見つらかった。タブレットやパソコンがあればオンライン授業はとても便利だなと感じた
- 資料が対面より見やすかった。友達との教えあいが出来なかったのが残念
- 長時間スマートフォンを見ているため普通の授業よりも目が疲れた

- スマートフォンを使っでの授業だと画面が小さく見にくかったりつながりにくかったりしたので対面授業がいいと思いました
- 授業としては受けやすかったけど対面と比べるとやりにくさがあったなと感じました
- 外に出る必要がなく安心して授業を受けることができた
- 各授業によって、リモートの方がわかりやすかった授業と対面の方がよかった授業で差が大きいと思った。
- 普段配布されるプリントの内容がスマートフォンで見れたり（配信されたり）対面では見えづらい白板の内容も全員に平等に伝わるのが良いと思った。
- 遠隔だとどうしても時差が生じたり、先生とのコミュニケーションが難しかったりとデメリットを多く感じました。
- 移動時間が減り、他に時間をまわせるのは良かったし、好きな場所で受けられたのも良かったです。ただ、今後対面+リモートになったとき、地方に住んでいると少し不便になりそうに思います。
- 学校までの距離があったのでリモートはすごく便利だと思いました。
- 実習は絶対に対面授業でないとわからないことが多いと感じました。
- 自宅にいながら授業を受けれるのは魅力的だと思うけど対面の方が私はいいなと感じた
- IT化が進む世の中に適応するためにはいい機会であったと思う。感染リスクを避け、通常の生活を送るのは難しいと感じた。
- 課題に向き合う時間が増えた。自分の学習に当ててる時間が確保された
- インターネットの環境が整っていないと接続が悪い。家なので、自分のやりやすいようにできること
- インターネットがしっかりしていなかったり、スマホしかもってないと少し不便。特に一人暮らしだったり、PCやタブレットをもっていない人
- 良い点も多くあったんですが、実習の部分ではやっぱり対面がよいと感じました
- 実習は対面、座学は遠隔授業でやりたいと思いました。
- 移動時間などの短縮で時間がつくれるのはよかったが、わかりにくい事とオンラインの環境で受けられない時もあったので全部オンライン授業は難しかった
- 家で授業を受けれて便利だったけど、実習等の時間が減ってしまったのでやはり対面がいいなと思いました。ですが、ボードや見やすくノートが取りやすかったです。
- デメリットが多すぎたのでオンライン授業はもうやりたくない
- 移動時間がかからないので自由時間が増えてよかった。学校より集中できた。
- 感染の心配がなかったので安心しました
- 先生によってスピードが違ってノートにかけなかったりする
- 移動時間がないのでよかった
- 少しわかりづらかった
- 先生がホワイトボードにかぶっている

- ネット環境に左右される
- 少し不便な所があった
- 先生側から生徒の進行状況がわからないので、板書の途中で先に進んだりした。自分のペースで受けることができた。
- 対面の方が授業のポイント点が分かりやすいから対面が嬉しいです
- 直接対面ではないので授業への意欲、態度は先生に伝わりにくかったです。
- 移動時間がいらないので朝ゆっくと支度ができ、朝食もしっかりと食べれて生活リズムが良くなった
- あまり授業に集中できなかった
- 少し聞きづらいところもあった
- 学校へ行って授業をした方が頭に入りやすい気がした
- 移動時間がかからないのでよかった
- オンラインよりも対面の方が頭に入るなと思いました
- たまにオンラインのルームに入れない時があって困った。
- 家の方が集中できる時もあった。
- 家ということで落ち着いて学習できた
- 移動時間がないのは大きい。楽だった。
- 便利
- めっちゃ楽
- 家ではいろんなものに気をとられるので、集中できなかった
- 眠かった
- 質問しづらくしばらくわからないままの状態が少しデメリットだと思った
- 学校に来なくても良いから時間を色々なことに使うことができて助かったし、コロナの時は少し怖いから落ち着いてからの対面授業だったので、安心して登校することができたので、そこがよかった。
- 学校が遠いので移動時間がかからなくてよかった
- 聞き逃すことが多く理解が遅い。通信環境等不十分でスムーズに授業が受けられない。
- 自分のペースでできる
- 自分のペースできるが、わからないことを質問するのはしにくかったので困った。
- 先生が話したポイントがおさえにくかった。
- 対面の方が集中しやすい
- 対面の方が楽しい
- サボりぐせが加速してしまう
- 静かなので授業に集中できた
- ペースがちょうどいい
- ペースが自分に合わなかったりすることが多くなった

- 対面の方がわかりやすいし楽しい
- やはりオンラインより対面の方がいいです
- 対面の方が集中できると思う
- 対面の方がいいです
- 移動の時間がかからないので時間的に楽になったけど授業の進みが遅くなったように感じたり、気楽に質問などができなくなって困るほどではないけれど楽しさがなくなったと思いました
- 私たち生徒の方の環境がよくても先生方の問題で止まったりしていた
- 画面越しだから自由だった
- 交通機関を利用しなくていいのでコロナの感染リスクが減って良かったと思う
- 家から出なくても授業が受けれたのはよかったです。家が遠い人にはとてもうれしいと思いました。ですが、家にWi-Fi環境がないとだいぶ電波悪いし大変だなと思いました
- 遠隔授業が思ったより少なくてよかった
- 睡眠時間が増えて心に余裕を持って授業を受けられました
- 遠隔で実習はできないなと思った
- いつもより挙手しやすい環境だったので思っていたより積極的に授業に参加できてよかった。
- 自宅で授業が受けれたので気になるところがあったときそのまま学習できたためよかった
- 新鮮で楽しかったけどあまりやりたくないです
- 感染のリスクが減って安心できた
- 学校には授業を受けるのと友達に会いに行くのが目的です。遠隔だと一人で授業を受けている感覚になるので学校へ行って、友達と同じ空間で学びたい。そっちの方が授業をうけるモチベーションにもつながる
- 電波が悪いとすぐに映像がとまってしまうので、わからないときがあった。
- 出席確認などですごく時間がかかるので授業が進みづらいと思った。手を挙げるほどの反応ができるのはいいと思う。
- まわりの話を聞くと、見えないところでスマホをしていたりお菓子を食べていたと聞いたので、きちんと受けている人との差ができてしまうと感じた。また、そういう人がいるということ先生方が知らないので公正に評価されていないと感じる
- たまにラグい（タイムラグが生じている状態）があったり、先生の声が聞こえづらかったりしたので、受けにくいときもありました。ですが、早起きをしなくてよかったのでそこはよかったです。
- 私語もなく自分の落ち着ける環境で受けられて良かった。移動時間がないのでよかった。
- 通信環境や要領などがもう少し改善されたら座学はオンラインでもいいなと思った。
- 人前という意識が低くなるので個人的には発言しやすかった。
- ホワイトボードがみえづらかった

- 移動時間がなくてとてもよかった。電車等に乗らないので密にならずに安心できた。音がきこえづらかった。
- 移動時間がなくてよかった。勝手に何回も退出してしまって大変だった。自分の落ち着ける環境で受けて良かった。
- たまにはしたい。
- 実習は対面、座学はオンライン授業がいい。
- 実習は100%リアルタイムで、座学は時々遠隔でも良いと思った。(ただし、1日の遠隔時間が長いと目がパサパサするなど疲労につながる。)
- 座学はオンラインでも良いと思った。
- 昼ごはんを家でたべれたり朝の支度をゆっくりとできたりで、家のことも休み時間中にできたりするので、家族も安心できる。
- 座学は遠隔授業の方がいいと感じました。移動しなくていいので、朝もゆっくりできたいと思います。実習は遠隔より対面のほうがやりやすいです。
- ラッピングの授業で遠隔だと細かいところが難しい。
- 目がとても疲れました。学校に行く準備をする時間が短縮できたのは良かったです。
- Wi-Fiが安定することが大前提。実習は対面、座学はオンラインで良いと思った。
- 家で受けれる方が楽でよかった。
- 楽に授業を受けることができる。
- 遠隔授業なので家から出ることなく授業受けれるのが楽だった。ホワイトボードの文字が見えなかった時があったのでそこがデメリットだった。
- うけやすかった
- 見にくい、聞こえにくい、分かりづらい
- 移動時間が少なく、家で受けられるので良かったです。
- 目がかれる。
- パソコンだと見にくい所はズームできたり、聞きとりにくい時は音を大きくしたりできるのでよかった。
- 移動時間がなくなって自由時間が増えた。対面ほど、授業内容がせんめいに伝わらなかった。
- スマートフォンだから画面が小さく見にくい。
- 画面がよく見れなかったら自分で調節することができたこと。
- 移動しなくていいので楽だった。

資料

製菓・調理分野の遠隔授業・実習に関する調査 ご協力をお願い（教員用）

～先端技術を活用した製菓・調理教育プログラム開発のために、貴校のお考えを聞かせてください～

この調査は、文部科学省の委託事業として「調理製菓分野における、教育効果の高い遠隔及びeラーニング教育実践」開発を行うための基礎調査です。是非率直なご意見をお聞かせください。

質問回答時間の目安は10分以内です

問1 貴校の学生数をご記入ください。

製菓系	1年	人	調理系	1年	人
	2年	人		2年	人
	3年	人		3年	人

問2 R2～3年度の遠隔授業実施状況についておたずねします。当てはまるもの全てに○をつけてください。

1 講義について

1	リアルタイム・双方向型（ビデオ会議システムなどを利用）
2	非リアルタイム・オンデマンド型（講義映像を配信して課題や小テストを実施）
3	遠隔授業は行わなかった
4	個別対応をした

2 実習について

1	リアルタイム・双方向型（ビデオ会議システムなどを利用）
2	非リアルタイム・オンデマンド型（講義映像を配信して課題や小テストを実施）
3	遠隔授業は行わなかった
4	個別対応をした

問3 遠隔授業（リアルタイム型やオンデマンド型）のメリットについて、当てはまるもの全てに○をつけてください。

1	学生・教員ともに移動時間がかからない
2	いつでもどこでも受講できる
3	自分のペースで繰り返し学習できる
4	授業の記録を残すことができる
5	グループ学習が苦手な学生はむしろ受講しやすい
6	質問がしやすい（質問しやすい）
7	学生の自律的な学習習慣の訓練になる
8	対面での授業よりも学生の学び（理解度）がわかりやすい
9	教え方や成績評価方法の選択肢が広がった
10	学生に私語がなく、授業に集中していた

上記以外に感じているメリット（ご自由に記述ください）

--

問4 遠隔授業（リアルタイム型やオンデマンド型）のデメリットについて、当てはまるもの全てに○をつけてください。

1	学校・学生の通信環境に左右される
2	実習での利用が難しい
3	学生の反応や理解度がわからない
4	学生に対してきめ細やかなサポートやメンタルケアができない
5	コミュニケーションや振り返りが難しい
6	従来の評価方法が使えない（評価の見直しが必要）
7	グループワークなどに参加しない学生に参加を促すことが難しい
8	質問が受けにくくなった（質問がしにくい）
9	学生間の理解度の差が大きくなった
10	課題作成・チェックの負担が増えた

上記以外に感じているデメリット（ご自由に記述ください）

問5 「製菓実習」「調理実習」を遠隔実習（リアルタイム型やオンデマンド型）で実施された学校におたずねします。

ア) 遠隔実習のメリットや今後の可能性として感じられたことをご自由に記述ください

イ) 遠隔実習のデメリットや遠隔実習の限界として感じられたことをご自由に記述ください

問6 アフターコロナの授業についておたずねします。

新型コロナウイルス感染症蔓延が終息した場合、どのような授業形態を希望されますか。

1	100%対面
2	75%程度対面、25%程度オンライン・オンデマンド授業
3	50%程度対面、50%程度オンライン・オンデマンド授業
4	25%程度対面、75%程度オンライン・オンデマンド授業
5	100%オンライン・オンデマンド授業

問7 「製菓・調理実習」の遠隔実習内容について、ご意見を聞かせてください。

ア) 対面実習と比較して、リアルタイム型遠隔実習で行うと教育効果が高いと考えられる「実習内容」がございましたらご自由にお書きください。

イ) 対面実習と比較して、オンデマンド型遠隔実習で行うと教育効果が高いと思われる「実習内容」がございましたらご自由にお書きください。

問8 遠隔授業を行う上で利用したツールはどれですか。

1	ZOOM
2	Google Meet
3	Cisco Webex
4	Microsoft Teams
5	Skype
6	LINE
7	スタディサプリ
8	Classi
9	V-CUBE
10	eboard
11	学校独自のサービス
12	その他 ()

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

製薬・調理分野の遠隔授業・実習に関する調査 ご協力をお願い（学生用）

～先端技術を活用した製薬・調理教育プログラム開発のために、あなたのお考えを聞かせてください～

この調査は、文部科学省の委託事業として「調理製薬分野における、教育効果の高い遠隔及びeラーニング教育実践」開発を行うための基礎調査です。是非率直なご意見をお聞かせください。

質問回答時間の目安は 10 分以内です

問 1 あなたの学科・学年に○をつけてください。

製薬系	1 年	調理系	1 年
	2 年		2 年
	3 年		3 年

問 2 遠隔授業の受講状況についておたずねします。当てはまるもの全てに○をつけてください。

1 実習以外の授業について

1	リアルタイム・双方向型を受けた。（ビデオ会議システムなどを利用）
2	非リアルタイム・オンデマンド型を受けた。（講義映像を配信して課題や小テストを実施）
3	遠隔授業は受けていない
4	個別対応を受けた

2 実習について

1	リアルタイム・双方向型を受けた。（ビデオ会議システムなどを利用）
2	非リアルタイム・オンデマンド型を受けた。（講義映像を配信して課題や小テストを実施）
3	遠隔授業は受けていない
4	個別対応を受けた

問 3 遠隔授業（リアルタイム型やオンデマンド型）を受けたよい印象・感想について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

1	移動時間がかからないのでよかった。
2	いつでもどこでも受講できるのでよかった。
3	自分のペースで繰り返し学習できるのでよかった。
4	授業を後から見直すことができてよかった。
5	グループ学習が苦手なので、受講しやすかった。
6	質問をしやすかった。
7	自分から学習しようと思った。
8	対面での授業よりもよくわかった。
9	先生の教え方や評価の仕方が変わった。
10	私語がなく授業に集中できた。

上記以外のよかったこと（メリット）（自由にご記入ください）

--

問4 遠隔授業（リアルタイム型やオンデマンド型）を受けた感想について、悪い印象・感想について当てはまるもの全てに○をつけてください。

1	遠隔授業を受ける場所の通信環境（Wifi 電波の弱さ・不安定さ）に左右された。
2	遠隔授業で実習をするのは難しいと思った。
3	先生によくわからないところや疑問点が伝わっていないと思った。
4	先生には、きめ細やかなサポートやメンタルケアはできないと思った
5	先生や同級生とのコミュニケーションや授業の振り返りができなかった。
6	先生がしっかり評価してくれているとは思えなかった。
7	先生は、グループワークなどに参加していない同級生に参加するように言っていなかった。
8	質問がしにくかった。
9	同級生の間でわかっている人とわかっていない人の差が大きくなったように感じる。
10	課題の量が増えた

上記以外によくないと感じたこと（デメリット）（自由にご記入ください）

問5 「製菓実習」「調理実習」を遠隔実習（リアルタイム型やオンデマンド型）で受けた方におたずねします。

ア) 遠隔実習をしてよかった点やこんな実習がしたいと思ったことを、自由にご記入ください

イ) 遠隔実習をしてあまりよくなかった点や遠隔実習ではできないことを、自由にご記入ください

